

東北トップ インタビュー

東北の魅力を再認識し、
持続的な成長へ

日本銀行

仙台支店長 よこほり 横堀 ゆうじ 裕二 氏

聞き手

帝国データバンク 仙台支店長 竹内 洋介

TOP INTERVIEW

国内外の経済情勢が大きく変化するなか、東北経済も人口減少や人手不足、物価上昇といった課題に直面している。一方で、半導体関連産業の集積・成長やインバウンド需要の拡大など、新たな発展の芽も見られる。こうした環境変化のなかで、地域経済は今後どのような成長を目指すべきか。今回は、昨年6月に日本銀行仙台支店長に就任した横堀裕二氏に、東北経済の現状認識と今後の展望についてお話を伺った。

昨年6月に仙台支店長に就任され、1年が経過しました。東北で暮らしてみてもの印象はいかがでしょうか

私は海外赴任など国際分野でのキャリアが長く、地方での生活は今回が初めてでした。そうした意味でも、今回の赴任を非常に楽しみにしていました。実際に暮らしてみると、本当に素晴らしい地域だと感じています。

東北には豊かな自然があり、食事もおいしく、歴史や文化に触れられる場所など、観光資源が非常に豊富です。特に仙台は、都市機能の利便性と自然環境の豊かさが両立しています。東京へも新幹線で約1時間半とアクセスが良く、生活の場としてだけでなく、ビジネス拠点としても優れた立地だと思います。

東北経済の現状認識をお聞かせください

当店では、東北地域の景気について「持ち直している」と判断しています。大きな要素となる個人消費については、物価高の影響から消費者の選別志向がみられるものの、雇用・所得環境の改善

が下支えし、全体として緩やかに回復しています。最近の特徴として、「価値がある」と認めた商品やサービスには支出を惜しまない傾向が広がっています。こうしたメリハリのある消費は、かつては高所得者層にみられるものと考えられていましたが、現在では一般の消費者にも広がっています。「推し活」などは、その代表的な例ではないかと思います。

また、モノ消費からコト消費・体験消費へのシフトも進んでいます。所得改善の効果も、商品購入より、宿泊や観光、イベントなどのサービス分野に先行して表れている印象があります。

生産面では、半導体関連需要の回復が全体をけん引しています。電子部品・デバイスは回復しているほか、生産用機械は持ち直しており、その背景には世界的な生成AI需要の拡大があります。輸送機械についても、受注残の解消に向けて、高水準の生産が続いています。

一方、食料品分野では、物価高を受けた買い控えの影響や、水産加工品における原材料不足などから、一部で弱さもみられます。さらに、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格や物流コストの上昇など、企業経営への影響には引き続き注意が

必要です。

雇用・所得環境についても改善が続いています。東北では人手不足が深刻であり、人材確保に向けた対応に加え、物価高のなかで従業員の生活を守りたいとの考えから、積極的に賃上げを行う企業が増えています。今年度も、高い水準の賃上げが見込まれています。

ただし、賃上げを一時的なものではなく持続可能なものにしていくためには、企業がその原資を持続的に確保しなければなりません。適切な価格転嫁を進めるとともに、生産性向上を通じて収益力を高めることが重要です。

現時点では、中東情勢の緊迫化に伴うコスト上昇が消費マインドを大きく下押ししている状況にはありません。むしろ節約志向は前年の方が強かったという声も聞かれます。価格転嫁や賃上げ、設備投資など前向きな動きも続いており、東北経済は全体として持ち直しの動きを維持しているとみています。

東北経済の強みや今後の成長のカギについてお聞かせください

東北経済を考える上で最大の課題は人口減少です。東北は全国に先駆けて人口減少と高齢化が進んでおり、自然減だけでなく、若者の首都圏への流出も続いています。人口減少への対策はもちろん重要ですが、効果が表れるまでには時間がかかります。そのため、持続的な成長を可能とするためには、域内の生産性向上と域外需要の取り込みが重要になります。こうした実情を踏まえ、東北の成長を支える分野として「製造業」「観光」「農業」の三つに大きな期待を寄せています。

まず製造業です。東北では2010年代以降、半導体や自動車関連産業の集積が進んでいます。特に電子部品・デバイスの製造品出荷額は全国トップ

クラスで、震災以降の東北経済の成長を大きく支えてきました。付加価値の高い製造業が集積することで、県民所得や労働生産性の向上にもつながっています。

さらに、その成長を支えているのが東北大学をはじめとする研究機関です。東北大学は日本初の国際卓越研究大学に認定されており、ナノテラスも本格稼働しています。幅広い分野で研究開発イノベーションが進められており、大学1校当たりの企業との共同研究件数も東北が全国トップとなっています。企業による研究開発投資も足もとでは伸びていますので、今後も製造業の競争力向上につながることを期待しています。

二つ目は観光です。東北には豊かな自然、おいしい食事、歴史・文化資源など、多くの魅力があります。最近の消費行動の変化を見ると、価値ある体験への支出を惜しまない傾向が強まっており、東北が持つ観光資源との親和性は非常に高いと感じています。

特に期待しているのがインバウンドです。現在、東北への外国人宿泊者数は日本全体の約1.6%にとどまっており、大きな伸びしろがあります。なかでも欧米からの旅行者は滞在期間が長く、消費単価も高い傾向があります。東北には歴史文化体験や自然体験など、欧米の旅行者に訴求できる魅力が豊富にあり、今後さらに訪問客が増えていくことを期待しています。

近年はクルーズ船の寄港も増えており、海外メディアで東北が取り上げられる機会も増えていきます。実際に東北でのインバウンド消費も大きく伸びており、地域経済への効果も着実に表れ始めています。

三つ目は農業です。東北は広大で良質な農地や豊かな水資源、冷涼な気候に恵まれた全国有数の農業地域であり、米や果樹、畜産物など高品質な農産物は国内だけでなく海外でも高く評価されています。農業は特産品の供給のみにとどまらず、観光と連携することで、食事や文化の体験といったさらなる価値を生み出すことができます。農泊やフードツーリズム、ワイナリーや酒蔵巡りなどは、地域の魅力を体験として提供できる非常に大きな可能性を持っています。

一方で、農業分野では高齢化や後継者不足が課題となっています。しかし、AIやDX、ドローン、自動走行技術などを活用したスマート農業が普及すれば、生産性向上だけでなく若い世代の参入促進にもつながる可能性があります。



「金利ある世界」に移りつつあるなかで、これからの地域金融機関の役割についてお聞かせください

東北の地域金融機関は、それぞれ地域に根差し、地域経済と深い関係性を築いています。これまででもそうであったように、金融仲介機能を発揮し、地元経営をしっかりと支えていただきたいと期待しています。一方で、そのためには地域金融機関自身も持続可能性を意識する必要があります。特に東北では、人口減少と少子高齢化により、地域によっては営業基盤そのものが縮小する可能性があります。そうした環境のなかで、基礎的な収益力をどのように維持・向上させるかが大きな経営課題です。

また、日本経済は長く続いたデフレ環境からインフレ経済へと転換し、「金利のある世界」が復活しています。こうした環境変化は地域金融機関の経営にも大きな影響を与えています。金利上昇は貸出金利や債券利回りの改善を通じて収益向上につながる一方、預金金利の引き上げによる調達コストの増加や、有価証券運用への影響もあり、収益環境はより複雑になっています。

こうしたもとで、NISAなどの運用商品への資金シフトの動きも背景に、預金者の選択肢も広がり、預金獲得競争が強まっています。金融機関としては安定した調達基盤をどのように維持するか、またこうした調達環境の変化を踏まえてどのようにALM運営（資産・負債の総合管理）を行うかが重要な課題になります。

人口減少のもと自然体で融資需要が大きく伸びる環境にはありません。そのため今後は、単なる資金供給だけでなく、コンサルティング機能や情報提供機能の重要性がこれまで以上に高まると考えています。また、金利の上昇は企業や個人にとっても長らく経験していなかった環境変化です。住宅ローンや資産運用などについて、それぞれのリスクや特徴を丁寧に説明し、お客様に最適な選択を促す役割も重要になってくると思います。金融機関はいわば情報産業でもあります。その強みを活かして、企業と一緒に課題を解決していくことが期待されます。

最後に、東北の経営者の皆様へメッセージをお願いいたします

東北は高いポテンシャルを持つ地域です。実際にその魅力は国内外で着実に認知され、注目も高



まっています。ぜひ企業経営者や行政の皆様には、自信を持って東北の魅力を発信し、活かしていただきたいと思います。この点、地域の経営者の皆様とお話するなかで、地域の魅力や価値を再発見し、それぞれの強みを活かそうとする取り組みについて伺う機会もあります。そうしたお話を聞くたびに、大変心強く、嬉しく思います。今後、こうした動きがさらに広がり、交流人口の増加や地域経済の活性化につながることを期待しています。

また、宮城県では6月に「宮城県価格転嫁支援サポーター制度」が始まりましたが、こうした相談しやすい環境も活用しながら、価格転嫁や生産性向上に取り組み、持続的な収益力の改善を目指していただきたいと思います。企業収益の改善が賃上げにつながり、それが消費を支え、地域経済の発展につながっていくことを期待しています。

本日はありがとうございました。

（文・写真／仙台支店情報部 長谷川 祐太）

プロフィール

横堀 裕二氏

【経歴】

1996年3月	早稲田大学政治経済学部	卒業
4月	日本銀行	入行
2009年7月	〳	金融機構局企画役
2013年6月	〳	政策委員会室企画役
2016年6月	〳	パリ事務所長
2019年7月	〳	政策委員会室企画役
2020年7月	〳	政策委員会室広報課長
2022年6月	〳	情報サービス局総務課長
2023年6月	〳	決済機構局参事役
2025年6月	〳	仙台支店長